

Q. O-157問題による水との接し方の変化は？

全体では60%、大阪圏では75%以上が
『水との接し方、水の使い方などに変化あり』と回答

昨年夏のO-157問題によって、水の使い方、水との接し方、水道水に対する認識などに変化はあったでしょうか。

全体では61.8%と半数以上が『変化あり』と回答しました。特に多くの患者が出た大阪圏では75.6%が『変化あり』と答えました。

また男女別で見ると、『変化あり』と回答したのは、男性が51.9%に対して女性が71.5%と、20ポイント近くの大きな差が出ました。

変化があったと答えた方にその内容について聞いたところ（8択/複数回答）、全体では、1位『手を洗う回数が増えた』（90.7%）、2位『料理の素材の洗浄を丁寧にやるようになった』（73.4%）、3位『生水をそのまま飲まないようになった』（52.9%）などとなりました。ベスト3の順位は3地域とも変わりませんが、大阪圏では『プールに行かなくなった』が23.3%と、全体平均（16.6%）に比べて多いという結果になりました。これは、プールでの感染の可能性が報道され、大阪圏の一部でプールが閉鎖されたことが影響しているものと考えられます。

* 「男女別集計」及び「変化の内容集計」については次ページ参照



